

○宣戰の詔書（第一次世界大戦）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐ノ
ル大日本國皇帝ハ忠實勇武ナル汝有
衆ニ示ス
朕茲ニ獨逸國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕力
陸海軍ハ宜ク力ヲ極メテ戰鬪ノ事ニ
從フヘク朕カ百僚有司ハ宜ク職務ニ
率循シテ軍國ノ目的ヲ達スルニ勗ム
ヘシ凡ソ國際條規ノ範圍ニ於テ一切
ノ手段ヲ盡シ必ス遺算ナカラムコト
ヲ期セヨ

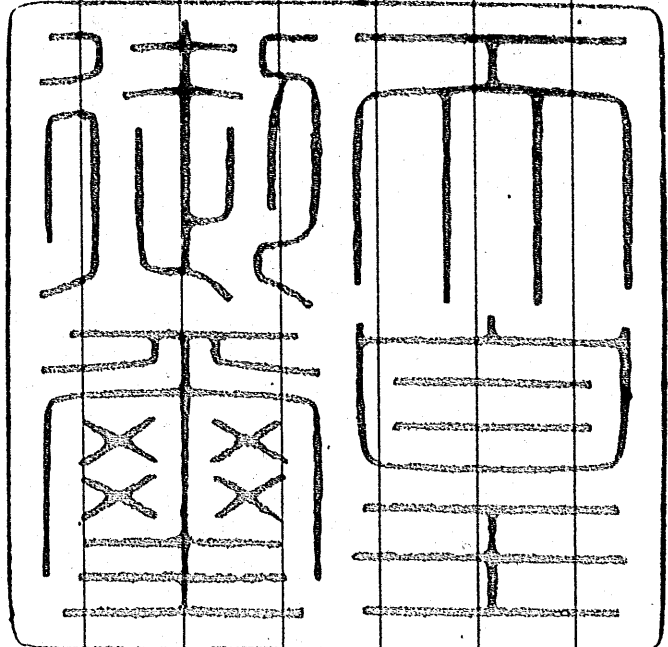
朕ハ深ク現時歐洲戰亂、殃禍ヲ憂ヒ
專ラ局外中立ヲ恪守シ以テ東洋ノ平
和ヲ保持スルヲ念トセリ此ノ時ニ方
リ獨逸國ノ行動ハ遂ニ朕ノ同盟國
ル大不列顛國ヲシテ戰端ヲ開クノ已
ムナキニ至ラシメ其ノ租借地タル膠
州灣ニ於テモ亦日夜戰備ヲ修メ其ノ
艦艇存ニ東亞ノ海洋ニ出没シテ帝國
及與國ノ通商貿易為ニ威壓ヲ受ケ極
東ノ平和ハ正ニ危殆ニ瀕セリ是ニ於

テ朕ノ政府ト大不列顛國皇帝陛下ノ
政府トハ相互隔意ナキ協議ヲ遂ケ兩
國政府ハ同盟協約ノ豫期セル全般ノ
利益ヲ防護スルカ為必要ナル措置ヲ
執ルニ一致シタリ朕ハ此ノ目的ヲ達
セムトスルニ當リ尙努メテ平和ノ手
段ヲ悉サムコトヲ欲シ先ツ朕ノ政府
ヲシテ誠意ヲ以テ獨逸帝國政府ニ勸
告スル所アラシメタリ然レトモ所定
ノ期日ニ及フモ朕ノ政府ハ終ニ其ノ

應諾ノ回牒ヲ得ルニ至ラス
 朕皇祚ヲ踐テ未タ幾クナラス且今尚
 皇妣ノ喪ニ居レリ恒ニ平和ニ眷々
 ルヲ以テシテ而カモ竟ニ戦ヲ宣スル
 ノ已ムヲ得サルニ至ル朕深ク之ヲ憾
 トス
 朕ハ汝有衆ノ忠實勇武ニ倚頼シ速ニ
 平和ヲ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ宣揚
 セムコトヲ期ス



大正加仁



大正三年八月二十三日

内閣總理大臣兼伯爵 大隈重信
 農商務大臣子爵 大浦 兼武

外務大臣	加藤高明
陸軍大臣	岡市之助
海軍大臣	八代六郎
大藏大臣	若槻禮次郎
文部大臣	一木喜徳郎
司法大臣	尾崎大雄
逓信大臣	武富時敏